

2008年度 日本經濟史研究所報

第12号

1. 研 究 活 動
2. 出 版 活 動
3. 黒 正 塾
4. 広 報 ・ 交 流 活 動
5. 史 資 料 の 収 集
6. 開 催 会 議
7. 人 事
8. 施 設
9. 2009 年度 事業 計画
10. 日本經濟史研究所規程



第10回寺子屋（2008年7月19日開催、講師は元本学学長・北崎豊二氏）

2009年7月

大阪經濟大学日本經濟史研究所

所長あいさつ

さらに開かれた経済史研究をめざして

日本経済史研究所所長 山本 正

私ども日本経済史研究所は、狭義の日本経済史にとどまることなく、さらに開かれた経済史研究を目指しています。すなわち、ジャンルのには経営史、政治史、社会史、文化史等を包摂し、空間的には日本を越え、世界とりわけ東アジアをカバーする経済史研究です。それに向けて本研究所が行ってきた、また現在行っている事業を紹介させていただきます。

まずは、オープン・リサーチ・センター整備事業（国際的な経済史・経営史研究の文献解題のデータベース化による世界発信）です。研究所開所70周年を記念して2003年度に開始したこの事業が5年の歳月をかけて完成しました。この間、2005年には日本語版データベースの、2008年4月には国際（英語）版データベースのインターネット公開を実現しています。また日本語版に関しては、現時点で、1951年（『経済史年鑑復刊第一冊（昭和26-28年）』所収分）以降のデータをすべてインターネットで検索できるようになりました。このように、日本における研究情報をいままで以上に広く収集するだけでなく、世界とりわけ東アジアの研究情報を収集しデータベース化することができるようになったのです。ご支援・ご協力いただいた内外の多くの研究者ならびに研究機関には、あらためて心より御礼申し上げます。

国際的な研究交流の面では、一昨年（2007年）12月に、韓国と中国の研究者を招き、また日本からは本学ならびに本学と交流関係を結ぶ東京経済大学・松山大学を含む6大学の研究者が集って、国際シンポジウム（第1回「東アジア経済史研究会」）を開きました。そこでの研究報告は研究叢書として本年（2009年）刊行の予定です。また、本年6月には、上海社会科学院歴史研究所研究員・教授の周武氏を迎えて、本研究所所員によるシンポジウム「上海 近代のあゆみ～日本との関わりを中心に～」を開催しました。

一昨年3月には、『杉田定一関係文書目録』を刊行することができました。本学の長年の懸案が、これもまた2003年度より、若い研究員をはじめとする努力によってついに解決をみることになりました。文書のすべてではありませんが、本学図書館のホームページからご覧いただくことができます。なお現在引き続き、杉田定一史料集づくりを研究員が中心になって進めています。本年度（2009年度）には第1集を刊行する予定です。

本研究所では1997年度より雑誌『経済史研究』を復刊しましたが、2008年度より本誌への投稿の門戸も開きました。購読者であれば誰でも投稿できるようにしたのです。そのために、これまでの編集委員に加えて、他分野にわたる研究者の方々に新たに参加していただいて編集委員会を強化し、投稿論文審査体制を整えることができるようになりました。本誌が若手をはじめ多くの研究者にとって重要な研究発表

メディアとなることを願っています。

日本経済史研究所が、日本はいうまでもなく、世界の中で、とりわけ東アジアのなかで不可欠な役割を果たすよう努力する所存です。今後とも皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

（2009年）



2008年度の活動経過

1. 研究活動

■ 経済史研究会 14:00~17:00

第51回 2008年4月12日(土) 出席者14名
会場 本学・C館65会議室
報告 鳩澤 歩 大阪大学大学院経済学研究科准教授
「19世紀後半ドイツ鉄道業の展開—技術と知識の社会的受容をめぐる一考察—」
*2007年度 第50回「日経・経済図書文化賞」受賞
『ドイツ工業化における鉄道業』有斐閣
司会 山本 正 本研究所所員

第52回 2008年6月7日(土) 出席者14名
会場 本学・50周年記念館 同窓会ホール
報告 三輪 宗弘 九州大学教授 記録資料館産業経済資料部門
「戦時期日本の航空機用ガソリン製造—海外技術導入と独自技術—」
司会 吉田 秀明 本研究所所員

第53回 2008年12月13日(土) 出席者17名
会場 本学・C館65会議室
報告 脇村 孝平 大阪市立大学経済学研究科教授
「19世紀アジアの健康危機—半乾燥熱帯におけるマラリアとコレラ—」
司会 本多 三郎 本研究所所長

■ 日本経済史研究会

第10回 2008年5月18日(日) 14:00~17:00 出席者10名
会場 本学・50周年記念館 第1・2会議室
報告 西里 喜行 国立大学法人琉球大学教育学部名誉教授
「中琉日関係史の諸相—「歴代宝案」の世界—」
報告 閻 立 本学経済学部専任講師・本研究所所員
「琉球処分」をめぐって
—清末における朝貢体制の再編の側面からの問題提起—」
司会 本多 三郎 本研究所所長



日本経済史研究会(西里喜行氏)

第11回 2008年7月27日(日) 14:00~17:00 出席者 10名
会場 本学・C館 65会議室
報告 竹内 祐介 京都大学大学院経済学研究科
「戦間期朝鮮の消費市場の拡大と鉄道輸送」
コメンテーター: 李 憲昶 高麗大学教授

第12回 2008年10月10日(金) 12:30~13:30 出席者 14名
会場 本学・本研究所 共同研究室
報告 ミノリ 美保子 関西大学非常勤講師・本研究所研究員
「日本人租界」にふれてー上海・虹口地区見聞記ー

■ 日本経世済民史研究会

第11回 2008年6月14日(土) 14:00~17:00 出席者 21名
会場 本学・C館 63会議室
書評 友部謙一 著『前工業化期日本の農家経済』
*2007年度第50回「日経・経済図書文化賞」受賞
評者 斎藤 修 一橋大学教授
評者 大島真理夫 大阪市立大学大学院経済学研究科教授
司会 徳永 光俊 本研究所所員

2. 出版活動

■ 刊行雑誌

『経済史研究』第12号 2009年2月発行

■ 『経済史研究』編集委員会

第10回 2008年6月7日(土) 12:00~14:00 出席者 14名
会場 本学50周年記念館第1・2会議室
司会 本多 三郎 本研究所所長・編集委員長

第11回 2008年7月26日(土) 12:00~13:30 出席者 9名
会場 本学C65会議室
司会 本多三郎 本研究所所長・編集委員長

3. 黒 正 塾

■ 第6回 春季歴史講演会

応募総数 356 名

2008年5月17日(土) 14:00~16:00 出席者 235名
会場: 本学・C館31教室
講師: 西里 喜行 国立大学法人 琉球大学教育学部名誉教授
テーマ: 「東アジア史における琉球処分ー琉球王国の滅亡と琉球民族の復活ー」

■ 第10回 寺子屋「史料が語る経済史」

応募総数 378 名

共通テーマ: 東アジア世界と昭和日本
会場: 本学C館31教室 14:00~16:00

2008年7月12日(土) 出席者 161名
講師: 少^{ショウ}徳^{トク} 敬^{キョウ}雄^{ユウ} 松下電器産業株式会社 元副社長 (現 パナソニック株式会社)
テーマ: 「東アジア工業化と松下電器ーエレクトロニクス事業の構造変化ー」

2008年7月19日(土) 出席者 188名
講師: 北崎 豊二 元本学学長
テーマ: 「昭和の大阪と在阪朝鮮人ー戦前期を中心にー」

2008年7月26日(土) 出席者 165名
講師: 李^イ 憲^{ホン} 昶^{チャン} 韓国・高麗大学教授・経済史学会副会長
テーマ: 「20世紀朝鮮史の国際環境」

■ 第6回 秋季学術講演会

会場: 本学C館31教室

応募総数 229 名

2008年11月15日(土) 14:00~16:00 出席者 110名
講師: 近藤 直美 本学人間科学部准教授
テーマ: 「大陸の幻想ー在留小学生綴方集に見る中国ー」

2008年11月22日(土) 14:00~16:00

出席者 125名

講師: 堀 和生^{カズオ} 京都大学大学院経済学研究科教授

テーマ: 「東アジア資本主義史研究-19世紀から戦後の経済発展まで-」



秋季学術講演会 (講師は堀和生氏)

4. 広報・交流活動

(1) 新聞・雑誌掲載記事

■ 講演会に関して

- ①2008. 4. 28 朝日新聞(夕)
- ②2008. 4. 28 毎日新聞(夕)
- ③2008. 5. 1 産経新聞(夕)
- ④2008. 5. 1 日経新聞(夕)

(2) ホームページ <http://www2.osaka-ue.ac.jp/nikkeisi/>

(3) 「経済史文献解題」データベース

(遡及版) 『経済史年鑑』復刊第一冊(昭和26-28年)～『経済史文献解題』2003年版
(現行版) 『経済史文献解題』2004年版～2008年版

検索URL <http://kaidai.osaka-ue.ac.jp/kaidai2/search/fullSearch>

5. 史資料の収集

◆購入資料

◇図書 資産性図書	543冊	4,486,196円
消費性図書	72冊	210,899円
◇雑誌(20種)	166冊	168,429円
合計	781冊	4,865,524円

◆受贈資料

◇図書	192冊
◇雑誌(107種)	216冊

6. 開催会議

- ◇第1回 運営委員・所員合同会議
日時 2008年4月18日(金) 11:00~12:30
場所 本研究所 共同研究室
議題 (1) 『経済史研究』編集委員会の運営について
年2回開催は不可能か、査読体制等々
(2) 2008年度 後半の活動について
(3) その他
- ◇第2回 運営委員・所員合同会議
日時 2008年7月4日(金) 11:00~12:30
場所 本研究所 共同研究室
議題 (1) 2008年度後半の活動計画
(2) 『経済史研究』編集委員会報告
(3) 蔵書管理 ・棚卸し作業
・蔵書データ遡及
(4) その他
- ◇第3回 運営委員・所員合同会議
日時 2008年10月10日(金) 11:00~12:30
場所 本研究所 共同研究室
議題 (1) 7月4日以降の活動計画
(2) 2008年度 後半の活動予定
(3) 2009年度 予算要求について
(4) その他
- ◇第4回 運営委員会・所員合同会議
日時 2008年10月24日(金) 11:30~12:30
場所 本研究所 共同研究室
議題 (1) 2009年度 予算要求について
(2) その他
- ◇第5回 運営委員会・所員合同会議
日時 2009年3月11日(金) 11:00~12:00
場所 本研究所 共同研究室
議題 (1) 次期研究所長選任について
(2) 2009年度 前期活動計画
(3) 研究員等の人事について
(4) その他
- 第1回 所員会議
日時 2008年9月26日(金) 11:00~12:30
場所 本研究所 共同研究室
議題 (1) 2009年度 活動計画について
(2) その他

7. 人 事 (2009年5月1日付)

所 長 山本 正 (経済学部)

運 営 委 員 家近 良樹 (経済学部) 青水 司 (経営学部)
伊藤 博志 (経営情報学部) 平等 文博 (人間科学部)
三宅 律子 (事務室)

所 員 家近 良樹 (経済学部) 閻 立 (経済学部)
大野あずさ (経済学部) 楠葉 隆徳 (経済学部)
近藤 直美 (人間科学部) 坂本優一郎 (経済学部)
徳永 光俊 (経済学部) 西山 豊 (経営情報学部)
藤本 高志 (経済学部) 本多 三郎 (経済学部)
山本 正 (経済学部) 吉田 秀明 (経済学部)

特別研究所員 秀村 選三 九州大学名誉教授
原田 敏丸 大阪大学名誉教授
安岡 重明 同志社大学名誉教授
藤本 隆士 福岡大学名誉教授
竹岡 敬温 大阪大学名誉教授・大阪学院大学名誉教授
松下 志朗 九州大学名誉教授
藤田貞一郎 同志社大学名誉教授
岡本 幸雄 西南学院大学名誉教授
山本 有造 中部大学人文学部教授・京都大学名誉教授
宮本 又郎 関西学院大学大学院経営戦略研究科教授・
大阪大学名誉教授
荻野 喜弘 九州産業大学商学部教授・九州大学名誉教授
山田 達夫 大阪経済大学名誉教授
三上 敦史 大阪学院大学国際学部教授
水原 正亨 大阪学院大学経済学部教授
瀬岡 誠 大阪学院大学経営学部教授
佐村 明知 大阪大学大学院経済学研究科教授
石川健次郎 同志社大学商学部教授
渡邊 忠司 佛教大学文学部教授
山田 秀 九州産業大学商学部教授
野田 公夫 京都大学大学院農学研究科教授
天野 雅敏 神戸大学大学院経済学研究科教授
大島真理夫 大阪市立大学大学院経済学研究科教授
西村 卓 同志社大学経済学部教授
上村 雅洋 和歌山大学経済学部教授
宇佐美英機 滋賀大学経済学部教授
阿部 武司 大阪大学大学院経済学研究科教授
江藤 彰彦 久留米大学経済学部教授
今野 孝 福岡大学商学部教授
澤井 実 大阪大学大学院経済学研究科教授
柴 孝夫 京都産業大学経営学部教授
脇村 孝平 大阪市立大学大学院経済学研究科教授
西牟田祐二 京都大学大学院経済学研究科教授
三輪 宗弘 九州大学教授附属図書館記録資料館産業経済資料部門

友部 謙一 大阪大学大学院経済学研究科教授
原 康記 九州産業大学商学部教授
武井 章弘 大阪学院大学経済学部教授
廣田 誠 大阪大学大学院経済学研究科教授
稲葉 和也 山口大学大学院技術経営研究科教授
足立 芳宏 京都大学大学院農学研究科准教授
松村 隆 大阪学院大学国際学部准教授
鳩澤 歩 大阪大学大学院経済学研究科准教授
木山 実 関西学院大学商学部准教授
島田 竜登 西南学院大学経済学部准教授
伊藤 昭弘 佐賀大学地域学歴史文化センター准教授
豊田 太郎 札幌大学経営学部准教授
渡邊 純子 京都大学大学院経済学研究科准教授
北澤 満 九州大学大学院経済学研究院准教授
河崎 信樹 関西大学政策創造学部准教授
宮地 英敏 九州大学准教授附属図書館記録資料館産業経済資料部門
水原 紹 大阪学院大学経営科学部准教授
鷺崎俊太郎 九州大学大学院経済学院准教授
崎浜 靖 沖縄国際大学総合文化学部准教授・南島文化研究所専任所員
福岡 正章 同志社大学経済学部専任講師
本村 希代 福岡大学商学部専任講師
川満 直樹 同志社大学商学部専任講師
伊藤 淳史 京都大学大学院農学研究科助教
梶嶋 政司 九州大学助教附属図書館記録資料館九州文化史資料部門
三浦 壮 九州大学助教附属図書館記録資料館産業経済資料部門
田原 啓祐 (株) トータルメディア開発研究所資料調査責任者・
龍谷大学非常勤講師・本学非常勤講師
山口 信枝 福岡県地域史研究所研究員
漢那 敬子 (財) 沖縄文化振興会史料編集室
藤本 俊史 福岡大学研究推進部大学史料室
後藤 正明 福岡大学研究推進部大学史料室
乾 秀明 公立学校教諭
諸原 真樹 福岡大学商学部非常勤講師
奥田 以在 同志社大学大学院経済学研究科
小西 浩太 同志社大学大学院商学研究科
鍛冶 博之 同志社大学大学院商学研究科
千田 真也 京都大学大学院農学研究科
田代 愉美 京都大学大学院農学研究科

研 究 員 徳成外志子 本学非常勤講師
蕭 文嫻 本学非常勤講師
梁 炫玉 本学非常勤講師
岩本 真一 大阪市立大学大学院経済学研究科・本学非常勤講師
二宮 美鈴 茨木市役所臨時職員(史料調査員)・箕面市史料調査員
熟 美保子 関西大学非常勤講師

『経済史研究』	三輪 宗弘 (九州大学)	今野 孝 (福岡大学)
編集委員	江藤 彰彦 (久留米大学)	天野 雅敏 (神戸大学)
	阿部 武司 (大阪大学)	佐村 明知 (大阪大学)
	大島真理夫 (大阪市立大学)	脇村 孝平 (大阪市立大学)
	三上 敦史 (大阪学院大学)	西牟田祐二 (京都大学)
	野田 公夫 (京都大学)	渡邊 純子 (京都大学)
	柴 孝夫 (京都産業大学)	石川健次郎 (同志社大学)
	渡邊 忠司 (佛教大学)	家近 良樹 (本学)
	楠葉 隆徳 (本学)	徳永 光俊 (本学)
	藤本 高志 (本学)	本多 三郎 (本学)
	山本 正 (本学)	吉田 秀明 (本学)

事務室 三宅 律子 ・ 岸田 祐和 ・ 法貴 義弘
 井上 愛理 ・ 上羽 真弓 ・ 平野 早苗

所員の動向

● 山本 正

かつて初期近代と捉えられていたヨーロッパの 16～18 世紀は、いまではむしろ中世とも 19 世紀以降の近代とも画されるひとつの固有の時代としての近世として捉えられる傾向が強い。国家史・国制史の分野でもそうである。すなわち、ヨーロッパ近世の国家を、近代国民国家の前期的形態としてではなく、複合君主国というタームのもと近世に固有の国家形態として捉える見方が強調されるようになってきているのである。これを受けて、わたしはこの複合君主国モデルを、イギリス諸島の三王国のみならず、大西洋の彼方の西インド諸島および北アメリカ大陸の英領諸植民地からも構成されていく近世イギリス大西洋帝国に適用して、そのなかでアイルランドがいかなるポジションを占めたかという問題関心のもと、近世アイルランド史にアプローチしてきた。あるいは、アイルランド史の具体的なテーマから、近世イギリス大西洋帝国の構造・その特徴を照射してきたといってもよい。今後とも、そのような時間的・空間的視野や視座を見失わないようにしつつ、当面はヨーロッパ世界における「17 世紀半ばの全般的危機」の一環であるイギリス諸島における内乱（「三王国戦争」）に焦点をあて、そのなかでのアイルランド・カトリックの動向を考察していく予定である。

● 家近 良樹

校務としては、本学の図書館が保管している杉田定一に関する史料集の発刊に向けての作業に係わっています。私の学力不足で読めない（解読できない）字も結構あり、弱っております。

私的研究面では、いま現在、西郷隆盛の体調不良問題に取り組んでいます。これは、私個人がここ十年来、かなりの体調不良に苦しめられ、その結果、日本の歴史はあまりにも健勝者中心だと痛感させられたことによります。もっとも、折角取り組むのだから、この際、幕末・維新期の大問題で、いままであまり書いたことも、研究テーマとしたことも、共に無い問題にもチャレンジしてみようかとも思っています。

あとは、心と体にできるだけ負担をかけないように、残された時間を精一杯有効的に活かすだけです。これのみ考えております。

● 閻 立

2009 年 3 月に拙著『清末中国の対日政策と日本語認識—朝貢と条約のはざままで』（東方書店）が出版された。その中に清朝の言語政策について触れた。言語編成という点から統治の問題を考えるという視点が、清朝や東アジアの漢語文化圏を考えるうえで、どのような重要であることを更に論述する必要があると思う。そして外国語教育について清朝はどのような方針で行われたか、それは自国の言語政策とどのような関連があるのかなどの問題について、これから研究を行いたいと思う。

● 大野あずさ（2009年4月より本学経済学部専任講師）

・研究目的

アメリカ先住民の現代史、その中でも特に都市に住むアメリカ先住民の歴史は、日本はもとより、アメリカにおける先住民研究の分野でも特に研究が遅れているテーマの一つである。アメリカ先住民の6割以上が都市圏に居住する今、都市に住むアメリカ先住民の歴史を語らずにアメリカ先住民の歴史を語ることは不可能である。従来の征服者・植民者・白人たちによって残されてきた史資料を利用するだけでなく、インタビューやフィールドワークも行うことにより、これまで、「他者」として見なされてきた先住民の声をより強く反映した研究を行いたい。

・今後の研究計画

博士論文では、20世紀中葉からコロラド州デンバーに移り住んだ先住民たちと、彼らのコミュニティに焦点を当て、政策史および社会史の観点から考察した。今後の具体的な計画としては、都市に居住するアメリカ先住民をテーマに、引き続きフィールドワークも行いながら研究を続けると同時に、新たな分野にも挑戦したいと考えている。具体的には、アメリカ先住民と他のマイノリティ集団との関係性というテーマを視野に入れている。合衆国の先住民と他のマイノリティは有色人種として、また被差別者集団としての体験や立場を共有しつつも、法的・歴史的には明白な境界線によって分離されている。この関係性を更に複雑化させているのが、近年急激に加速している先住民の混血化と彼らのアイデンティティ形成の問題である。このアメリカ先住民と他の民族集団との関わり、アメリカ社会における歴史的体験の相違点、またアイデンティティの問題についてより深い調査・研究を行いたい。

● 楠葉 隆徳

14世紀にインドの世俗語で書かれた算術書の校訂・英訳・註をインド人研究者を含む四人で出版した。この本とほぼ同じ時期に書かれ、共通する部分を含むサンスクリット数学書の校訂・英訳・註の作業を続けている。

● 近藤 直美

・1900年代以降の日本人の中国観の変遷について

近代に入って、多くの日本人が中国大陸に旅行し、さまざまな文章を残してきた。

明治に入ると、ツーリズムの影響で旅行記、紀行文が多く出版され、日本国内の人々の中国大陸への憧れを高めた。それは文化、風土に対するあこがれにとどまらず、政治的な野心とそれに伴う経済的な関心を伴った。

1920年代に「支那通」と呼ばれた者たちも、その来歴も目的もさまざまである。

文学者でいえば、夏目漱石の『満韓ところどころ』が有名だが、その同じルートを数年後田山花袋が歩き、まったく異なる旅行記を著している。少しの時間差と書き手の関心のずれによって、同じ場所が全く異なるものとして読者に伝わる、ということである。同時に、同じ情報がそれを読む読み手によって、異なった影響を持つことも、当然のことだ。このことを、我々はどのように考えればよいのだろうか。

今研究では、明治以降の「書かれたもの」（多くは小説、旅行記）と「読まれかた」との関係を探っていくことを目的としている。まず、中国について書かれた文章に、時間の経過の中でどのような変化が生まれたのか、またそれらの文章は基本的に国内で読まれることを目的としている。それを中国在住の日本人はどのように読んだのか、ということを探りたい。その中から、「書かれたもの」の受け止められ方の位相のずれを検証できればと思っている。その上で、「書かれたもの」によって作られたイメージがひとり歩きをすることで、さらにそのイメージの上に作られていく像が、どのようにつながり、人々のイメージ形成に影響を与えているかを考察し、日本人の中国に対するイメージの変遷と、その理由、さらにその変遷による影響を考えたい。

現在においても、日本の中には明治期からの中国像が根強く残り、それが新しい中国像と

混在することで、真実の姿を見えにくくしているし、それを利用して自分にとって都合のよいイメージを人々に植え付けようとする者がいることも残念ながら事実だ。1900年代から1930年代頃の「書かれたもの」と「読まれかた」から、その一端を明らかにし、少しでも現在の相互理解に役立つ材料になればよいと考えている。

● 坂本優一郎（2009年4月より本学経済学部専任講師）

・研究目的

証券を売買・保有し、利子や配当を得る行為は、近代社会の形成とともに人びとのあいだで定着していくが、それでは「投資社会」の勃興と近代社会の形成は、どのような関係にあったのであろうか。本研究の目的は、近代社会の典型としばしばみなされるイギリスの経験にもとづき、「投資社会」の歴史的起源としての近代イギリス像を提示することにある。

・今後の研究計画

工業化直前の18世紀末は、まさに「投資社会」と「近代社会」双方の勃興期にあたり、両者の根源的なありかた、あるいは両者間の原理的な関係が先鋭的に現れた時代でもあった。この研究ではまず、近代社会発展の前提条件であったインフラストラクチャの形成と「投資社会」の拡大との関係を明らかにする。さらに、国家年金が事実上存在していなかった当時、事業資金の調達手段である「証券化」が、「証券」というかたちを通じて市場ベースの「年金」を提供し、証券保有が社会のセーフティネットの一翼を担っていたことも示す。また、「確率論」や「統計学」といった「生政治」を担った学知の形成が「投資社会」の勃興ときわめて深く結びついていたことや、事業主や投資家がそうした学知から利子率や余命の「予測可能性」を得ていたことについても視野に含まれるであろう。当面のケース・スタディとしては、イギリス・ロンドン近郊の監獄建設、ロンドンやイングランド南部の橋梁建設、さらに各地のターンパイク（有料道路）や運河の建設、上水道整備、ロンドンやリヴァプールをはじめとする港湾開発などを取り上げる予定である。

● 徳永 光俊

徳永個人の研究テーマ「日本農学原論を構築するための大正・昭和期における日本農学史の実証的研究」（科学研究費補助金（2008～2010））にもとづき、戦前期の日本農学論や農本主義に関する史料・書籍の収集に努めた。研究史の整理を行った。

広島大学大学院文学研究科 勝部真人教授の「近代グローバル化のなかの瀬戸内海地域-東アジア社会における外来と在来の視座から-」（科学研究費補助金（2006～2009））の共同研究者に加わり、東アジアの近代化における「在来」と「外来」のあり方について、共同研究を進めている。

この間、両研究とも具体的な研究成果を出すまでには至っていない。

2009年8月には、北京の中国科学院自然科学史研究所で招待発表をする。

2009年10月には、広島大学の広島史学研究会大会にて基調報告をする。

2009年11月には、本研究所主催の秋季学術講演会にて講演する。

2009年度中には、徳永も執筆している大島真理夫編著『土地稀少化と勤勉革命の比較研究』が出版される予定である。

徳永自身も近いうちに農業史にかかわる著作の出版を予定している。

● 西山 豊

2005年度のイギリス、ケンブリッジ大学への留学は私にとって大きな経験となりました。ヨーロッパの歴史や文化に触れる中で、奇数と偶数、指による数え方、書字方向、曲線と直線など新しい研究の領域が開けました。その研究成果は雑誌『理系への数学』（現代数学社）の「数学を楽しむ」という連載記事に公表し、1冊の本にまとめることができました。2008年度はブーメランを宇宙空間で飛ばす実験がおこなわれました。また、紙製ブーメランの解説書を世界69言語に翻訳する作業が完成し、インターネットにアップロードしてこの分野でも大きく前進しました。<http://www.kbn3.com/bip/index.html> 研究自体は地道なものですが真面目に努力すれば必ず実が結ばれると感じました。今後も魅力的なテーマに挑戦していくつもりです。

● 藤本 高志

日本の食料自給率は40%へと低下しました。これは、先進国の中では最低水準です。また、最近では、BSEなど食に関連する事件がマスコミを賑わせることが多くなりました。このような中で、日本の市民は食料の自給と安全性の改善の必要性を感じるようになりました。

現在の私の研究活動の中心は、食料自給率に関する研究です。日本を含む東アジアを対象に、人口、食生活、農林水産業の競争力など食料自給率を変化させる要因を定量的分析し、食料自給率の将来予測を行います。そして、自給率の変化が、土地や水など資源利用に及ぼす影響、窒素やCO₂排出など環境に及ぼす影響、エネルギー消費に及ぼす影響を定量的に評価します。

また、飼料用稲を基軸とする耕畜連携システム確立や、水田放牧システムの確立など、耕作放棄や遊休化が進む水田を活用し、食料自給率を向上すると同時に、水田を保全しようとするプロジェクトに参加しています。

● 本多 三郎

2009年4月末、2期4年の日本経済史研究所の所長職を無事務め終えることができました。この場を借りて皆様に心より御礼申し上げます。日本はもとより、韓国と中国に多数の友人ができました。楽しい充実した4年間でした。

さて私の研究ですが、相変わらずゆっくりとしたペースで進めています。「土地と自由を求めて～19世紀アイルランド土地問題序説～」(仮称)をまとめようとしています。どうしても見ておきたい史資料がアイルランド・ダブリンにありますので、そちらにも足を伸ばそうと考えています。

日本経済史研究所の仕事は引き続きやっていますが、この一年間で故松村幸一元所長の『16世紀イングランド農村の資本主義発展構造』(仮称)と、『東アジア経済史研究 第一集』(仮称、2007年12月の東アジア経済史研究会報告書)の刊行をめざし努力したいと思いません。

● 吉田 秀明

DRAMを中心とした半導体産業の動向と、そこでの日本企業を取り巻く環境について調査・研究しています。

このテーマをさらに深めると同時に、近接産業分野である太陽電池製造業の最近の動向についても調査する計画です。

太陽電池の分野でも、半導体同様に、中国・台湾・韓国の企業が参入し、日本企業を上回る大規模投資を計画しています。急速な価格低下や日本企業の後退が、この分野でも繰り返されるのか？というのが目下の関心事です。

8. 施 設

所在場所 G館1階・地下室
使用室名 所長室、共同研究室、古文書室、
事務室、書庫（地下室）
使用面積 197.76m²
所長室 (19.76m²)

共同研究室 (39.66m²)
古文書室 (30.28m²)
事務室
(黒正巖博士展示ホールを含む)
(108.06m²)



9. 2009年度事業計画

研 究 活 動

■ 経済史研究会

第54回 2009年4月11日(土) 会場：本学C65会議室 出席者27名
書評 市川 文彦 関西学院大学大学院経済学研究科准教授
「1930年代フランス経済史再論－竹岡敬温 著 『世界恐慌フランスの社会－
経済 政治 ファシズム』(御茶の水書房、2007)を読む－」
著者コメント：竹岡 敬温 大阪大学名誉教授
関西農業史研究会 共催

第55回 2009年6月6日(土) 会場：本学C館31教室 出席者180名
シンポジウム「上海 近代のあゆみ－日本との関わりを中心に－」

記念講演 周 武 (中国 上海社会科学院歴史研究所研究員 教授)
テーマ 近代書籍交流史における上海と日本－張元済の日本訪書を中心に－
シンポジウム(以下、報告者と報告テーマ)

- ・ 閻 立 (本学経済学部准教授・本研究所所員)
1860年代の上海と幕末日本
- ・ 熟 美保子 (関西大学非常勤講師・本研究所研究員)
上海の「私立学校」東洋学館をめぐって
- ・ 蕭 文嫻 (本学非常勤講師・本研究所研究員)
日中経済関係と横浜正金銀行上海支店(1893－1911年)
- ・ 岩本 真一 (本学非常勤講師・本研究所研究員)
20世紀初頭の裁縫教育を取り巻く経済史的要因
－上海の女学校授業科目をもとに－
- ・ 近藤 直美 (本学人間科学部准教授・本研究所所員)
1900年代以降の日本人の中国観の変遷について

司 会 本多 三郎 本研究所所員

第56回 2009年10月10日（土） 会場：未定
書評 閻 立 著『清末中国の対日政策と日本語認識—朝貢と条約のはざままで』
東方書店、2009年
評者 茂木 敏夫 東京女子大学現代文化学部教授

第57回 2009年12月5日（土） 会場：未定
合評会 風呂 勉 『第二次世界大戦日米流通史序説』 晃洋書房、2009年
【詳細は未定】

■ 日本経済史研究会

第13回 2009年4月17日（金） 会場：本学E館第2会議室 出席者8名
報告 坂本 優一郎 本学経済学部専任講師
「投資社会論の射程—18世紀のイギリスから—」

第14回 2009年10月16日（金） 会場：本学 C65 会議室
報告 大野あずさ 本学経済学部専任講師
【詳細は未定】

■ 黒正塾 第7回 春季歴史講演会 会場：本学C館31教室

申込者356名
出席者235名

2009年5月30日（土） 講師：田代 ^{カズイ}和生 慶應義塾大学大学院文学研究科教授
「鎖国」時代の日朝貿易—銀の路・絹の路—

■ 黒正塾 第11回 寺子屋 申込者344名 共通テーマ「1930年代世界恐慌をふりかえって」

2009年7月11日（土） 講師：竹岡 敬温 大阪大学名誉教授
「世界恐慌と経済政策—とくにフランスの場合—」
会場：本学C館31教室

2009年7月18日（土） 講師：秋吉 史夫 本学経済学部専任講師
「昭和恐慌下の日本経済」
会場：本学D館16教室

2009年7月25日（土） 講師：西川 純子 獨協大学名誉教授
「自由と規制—1930年代恐慌から何を学ぶか—」
会場：本学C館31教室

■ 黒正塾 第7回 秋季学術講演会

会場：本学C館 31 教室

2009年11月14日（土） 講師：南 直人 京都橘大学文学部教授
【テーマ未定】

2009年11月21日（土） 講師：徳永光俊 本学経済学部教授
【テーマ未定】

出 版 活 動

- | | |
|----------------|-------------|
| ◇ 『経済史研究』 第13号 | 2010年1月刊行予定 |
| ◇ 研究叢書第17冊 | 2010年2月刊行予定 |
| ◇ 研究叢書第18冊 | 2010年1月刊行予定 |
| ◇ 史料叢書第8冊 | 2009年 刊行予定 |

10. 日本経済史研究所規程

(名称)

第1条 「大阪経済大学学則」第57条に基づき、大阪経済大学（以下「本学」という）に大阪経済大学日本経済史研究所(Institute for Research in Economic History of Japan、Osaka University of Economics)（以下「研究所」という）を置く。

(目的)

第2条 研究所は日本経済史に関する研究・調査および編纂を行い、経済史学の向上発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 研究所は次の事業を行う。

- (1) 経済史・経営史に関する研究・調査および編纂
- (2) 研究・調査の成果の発表および刊行
- (3) 刊行物の継続的公刊
- (4) 研究・調査に必要な図書・資料等の収集・整理・保管
- (5) 研究会、講演会、展示会等の開催
- (6) 国内外の大学および研究機関との交流
- (7) 公共機関、民間団体その他の依頼による研究・調査の受託
- (8) その他研究所の目的を達成するために必要な事業

(構成員)

第4条 研究所に次の構成員を置く。

- (1) 所長 1名
- (2) 運営委員 5名
- (3) 研究所員
- (4) 特別研究所員
- (5) 研究員
- (6) 事務職員
- (7) 『経済史研究』購読会員

(所長)

第5条 所長は研究所の事業を統括するとともに組織・運営に関する全般的な責任を負う。

- 2 所長は運営委員の意見を聴いた上で学長が指名する。
- 3 所長の任期は2年とする。ただし重任は妨げない。

(運営委員)

第6条 運営委員は各学部（経済学部、経営学部、経営情報学部、人間科学部）から各1名を選出する。ただし研究所員との兼任ならびに学部長の兼務を妨げない。

- 2 事務職員の責任者は職務上運営委員となる。
- 3 運営委員は、所長の諮問に応じて研究所の事務円滑を図る。
- 4 運営委員の任期は2年とする。ただし重任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 研究所に運営委員会を置き、所長および運営委員をもって構成する。

- 2 運営委員会は所長が招集し議長となる。
- 3 運営委員会は所長の諮問に応じ、研究所の組織・運営に関する事項を審議する。

(研究所員)

第8条 研究所員は、本学専任教員で研究所の目的に沿った研究・調査を希望し、かつ研究所の継続事業に協力できる者を所長が委嘱する。

- 2 研究所員は、所定の課題に関する研究および調査を行い、その成果を任期内に研究所の刊行物として公刊しなければならない。
- 3 研究所員の任期は2年とする。ただし重任を妨げない。

(研究所員会)

第9条 研究所に研究所員会を置き、所長および研究所員をもって構成する。

- 2 研究所員会は所長が招集し議長となる。
- 3 研究所員会は所長の諮問に応じ、第3条に掲げる事業を行うために必要な事項を審議する。

(運営委員会と研究所員会との合同会議)

第10条 所長は必要に応じて運営委員会と研究所員会との合同会議を招集することができる。

(特別研究所員)

- 第 11 条 研究所は、本学専任教員以外で、研究所の事業を遂行するために必要とする者を特別研究所員として委嘱することができる。
- 2 特別研究所員は委嘱された業務以外に従事することはできない。
 - 3 特別研究所員は運営委員、研究所員の意見を聴いた上で所長が委嘱する。
 - 4 特別研究所員の任期は委嘱業務に必要な期間とする。

(研究員)

- 第 12 条 研究所はその事業に協力する者を研究員として委嘱することができる。
- 2 研究員は委嘱された業務以外に従事することはできない。
 - 3 研究員は運営委員、研究所員の意見を聴いた上で所長が委嘱する。
 - 4 研究員の任期は委嘱業務に必要な期間とする。

(事務職員)

- 第 13 条 事務職員は所長の命を受け研究所の事務を処理する。
- 2 業務分掌については別に定める。

(『経済史研究』購読会員)

- 第 14 条 『経済史研究』を直接研究所より購読する者を購読会員とする。

(改廃)

- 第 15 条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て各教授会の承認を得なければならない。

附 則

- 1 この規程は、平成元年 3 月 16 日に制定し、同日から施行する。
- 2 この規程第 4 条(2)、第 6 条は 1997 年 3 月 11 日に改正し、1997 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 この規程は 1999 年 1 月 22 日に改正し、同日から施行する。
- 4 この規程は 2002 年 4 月 1 日に改正し、同日から施行する。
- 5 この規程は 2007 年 2 月 13 日に改正し、2007 年 4 月 1 日から施行する。
- 6 この規程は 2007 年 10 月 26 日に改正し、施行する。